

次世代RTGS対応(第2期対応)の稼働開始



日本銀行 決済機構局

2011年12月15日

1. 第2期対応の概要

- 日銀当預RTGSに流動性節約機能を導入、外為円決済取引を完全RTGS化 <第1期対応>
- 全銀システムで1日1回の時点ネット決済で処理されている内為取引のうち、大口分(1件1億円以上の取引)を、日銀当預RTGSで日中即時に決済 <第2期対応>

現在のイメージ(第1期対応後、2008年10月～)

日銀ネット<RTGS> 107兆円(5万件)

日銀当預決済 94兆円(2万件)
(外為円決済分を除く)

外為円決済制度
における取引
13兆円(3万件)

(外為円システム)

ネット尻

内為取引
10兆円(596万件)

(全銀システム)

大口内為取引のRTGS化後(第2期対応後、2011年11月～)

日銀ネット<RTGS> 113兆円(6万件)

日銀当預決済 93兆円(2万件)
(外為円決済、大口内為分を除く)

外為円決済制度
における取引
13兆円(3万件)

(外為円システム)

ネット尻

大口内為
7兆円
(1万件)

小口内為
3兆円
(595万件)

(全銀システム)

RTGSの対象範囲

時点ネット決済の対象範囲

注) 計数は2010年10月の1営業日平均の決済金額を基に試算。

大口内為取引の取引金額・件数	
金額	7兆円(70%)
件数	1万件(0.1%)

* 括弧内は内為取引全体に占めるシェア。

2. 大口資金決済のRTGS化の経緯

1990年代～	(国内)金融システム不安 ⇒ 決済リスク削減の意識 (海外)主要国における決済リスク削減に向けた決済システムの改善
2001年1月4日	日銀当座預金決済および国債決済のRTGS化 ⇒ 日中のファイナリティ付与(時点ネット決済における「巻き戻しリスク」解消) ⇒ 流動性調達コスト、「すくみ」による決済の進捗遅延リスクが課題(課題①)
2001年1月15日	BIS支払・決済システム委員会(CPSS) 「システミックな影響の大きい資金決済システムに関するコア・プリンシプル」 …”ファイナルな決済は、 <u>日中に提供されることが望ましく(=ベスト・プラクティス)、少なくとも決済日の終了時までには提供されるべき(=最低基準)である</u> ” ⇒ 外為円決済制度、全国銀行内国為替制度(内為制度)の大口取引は、上記最低基準はクリア。ただし、ベスト・プラクティスの達成が課題(課題②)
2003～2009年	電子CP、社債、投資信託等の決済を日銀当座預金のRTGS決済とDVP化
2008年10月14日	次世代RTGS第1期対応の実施 ⇒ 日銀当座預金決済における流動性節約機能(「待ち行列機能」、複数指図同時決済機能)の導入(課題①への対応) ⇒ 外為円決済取引の完全RTGS化(課題②への対応)
2011年11月14日	次世代RTGS第2期対応の実施 ⇒ 内為制度の大口取引のRTGS化(課題②への対応)



銀行間の資金決済から、国債・社債・CP等の資金決済、企業間等の大口決済に至るまで、わが国の大口資金決済のRTGS化を達成

3. 稼働開始後の状況

■ 日銀当預RTGS、第6次全銀システムともに、順調に稼働。

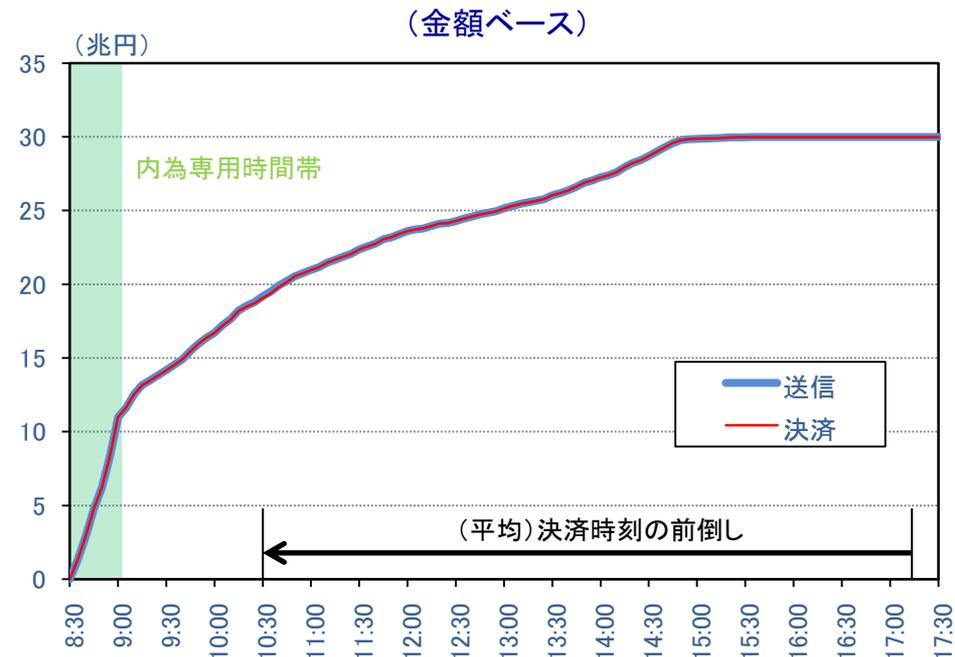
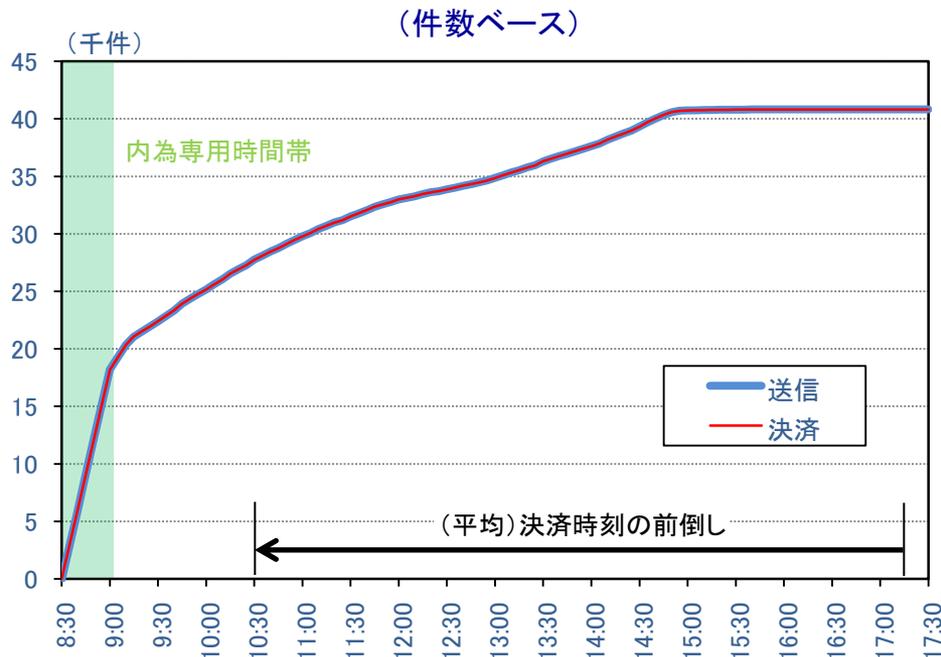
- 大口内為取引の平均決済時刻は、従来の時点ネット決済(16:15<月末日は17:15>)に比べ、大幅に早期化。
- 取引の送信後、同時決済口での待機は短時間に収まっており、円滑な決済が行われている。
- 市場取引、外為円取引の決済進捗の状況は、第2期対応稼働開始前と同程度。

■ 事務量の多い月末日も、円滑に決済が進捗。

- 大口内為取引専用時間帯^(注)は有効に活用されている。

(注) 月末日の8:30~9:00に設定。

2011年11月30日における大口内為取引の決済進捗



4. 今後の課題

- 当座勘定(同時決済口)での決済全体が円滑に行われるよう、引き続きフォローするほか、全銀ネット等における以下の対応をサポート。

(決済状況のフォロー)

- ・ 事務量が年間ピークとなる年度末を含め、全銀システムや日銀ネットにおける電文送受信および決済の状況を確認
- ・ 第2期対応に伴い導入された、大口内為取引に関する決済ルールの順守状況の確認

(リスク管理策の検討)

- ・ 大口内為取引が時点ネット決済の対象から外れたことに伴うリスク管理策の適切なあり方に関する検討

(業務継続体制の確保)

- ・ 第2期対応に伴い導入された障害対応策の実効性確保(訓練の実施など)